好きこそものの上手なれ

第13話

回胴倒錯者

—PACHISLO FREAK—

解禁

ミレニアムと言う言葉が世界を駆け巡り、どこの国でもお祭り状態になった2000年。スロット業界においてもスペシャルな情報が飛び交っていた。

「とうとう三重県もスロット解禁らしい」

唯一スロットの無かった地域である三重県がついに夏頃には全面的に導入開始ということだった。

①全店舗がグランドオープンのようなもの?

②スロットを知らない人が相手なので、これからのためにスロットのイメージを良くするはずだから全力で出してくる?

③スロットの知識ゼロの人が多いから、リーチ目の見落としなどが多発し、おいしい思いができる?

④店側も知識のある人が少ないから、設定変更後の処理等、管理が甘い?

こんな感じで、スロットに全く馴染みの無かった三重県民の反応よりも、近隣府県の方が敏感に反応したに違いない。こうした他府県の挙動は当然店側も容易に予想可能なので、結果としてそれなりの対処はされたのだが…。それでもその店側の挙動も推測済みだった私は、春先に一度実家へ戻り、実家近隣のありとあらゆるパチンコ店に足を運び、会員登録など、できる限りの布石は敷いたのであった。このとき、同じ三重県出身の友弟子N君も私と一緒に奔走していた記憶がある。

8月

先に述べた布石が功を奏して、オープン初日は会員カードや、会員へのダイレクトメールを持っている人が優先入場となった。厳しいところでは、三重県在住が確認できるものが必要となる店や、オープンから1週間は地域会員優先とする店もあったほどである。それだけ本気の出玉を用意しているのかと思うと、私とN君は取らぬ狸の皮算用状態だった。

7月末、待ちに待った私達の三重県初スロットは昔懐かしい雰囲気のするA店だった。この店には全国的にヒットした「大花火(アルゼ)」が多数設置されていた。私達も迷わず大花火を打っていた。そのほかの機種もあったが、この店にはこの日に一度来ただけなので覚えていない。そしてなぜか二人して負けた…。そして次の店でも、更にはその次の店でも…。いまいち収益が上がらない。勝ったり負けたりの繰り返し。これはヒキの問題ではなく、明らかに高設定ではなさそうだ。店側に裏切られた気分全開で、なんとも言えない苛立ちがこみ上げてきていた。たまたま私とN君だけが出ていないわけではない。出ている台の方が遥かに少なかったのだ。そしてもう一つ意外だったのが、近隣府県からの打ち手が思った以上に少ないことだった。私達の稼動地域が他府県からは遠い伊勢市あたりという事もあるかもしれないが、それにしても少ない。やはり、桑名や四日市、名張や上野、もしくは熊野あたりにながれていたのだろうか?

8月は以上のような状態だったので、思ったほどの収益は得られず、大阪で打っていた頃とさほど変わらない利益だった。

9月

9月に入ると、スロット新装オープンの店もほとんどなくなり、通常営業となっていた。店の並びもそれほど多くなく、どちらかと言えば閑散としていた。(8月に出さなかったからかな?)しかし私とN君にとってはこの月からこそ、本物の好機到来となったのである。導入して1ヶ月のため三重県の方々のスロットの知識はまだまだ薄く、リーチ目はけっこうな頻度で落ちていた。さらには、ボーナス確定ランプが光っているのに空台となっている台も落ちていた。一度、ゲゲゲの鬼太郎SPで、目玉の親父ランプが点灯(ボーナス確定)している台だけが空台になっていた…(その隣に座っていたおじさんに、空台か確認したから間違いなく空台だった)。そんなことよりも、私たちにとって最も使えたのが「店側の対応の甘さ」だった。設定変更後の処理などは皆無で、据置・変更が一目瞭然だったのだ。さらに高設定の投入率はあからさまに8月よりも上がっていた。

このときの私達のメインの獲物は「玉緒でポンDX(サミー)」。この機種は他府県ではあまり見ることのなかったマイナー機種だったが、発売時期が三重県スロット解禁時期と重なったからなのか、三重県で割りと目にした機種である。しかしスペックは強烈で、シフト持ち越しの大量獲得機+BIG後2分の1でAT、さらにハズシはビタ押しという、初心者の多いこの時期の三重県には過酷すぎる機種だった。きっちり打てば平均600枚以上は取れてしまうが、ハズシが出来なければ平均500枚にも到底及ばず、7絵柄さえ狙うことが出来なければ400枚にも到底及ばない仕様である。設定6は238分の1で、ATが付いている分、大花火より断然余裕で万枚確定だったのだ。そして何より魅了させたのが、通常時の面白さにある。液晶はさておきリール制御と配列には感嘆する。シンプルだけど毎ゲーム飽きることはなく、なにか期待させられる。

左リールが2コマ以上スベったときには盛り上がりは最高潮に達する。ただ2コマスベるだけでここまで盛り上がれる機種はそうそうない。N君は玉ポンDXに魅せられて、実機まで購入する溺愛ぶり。3度の飯より玉ポンが好き!まさにそんな状態だった。9月は玉ポンのおかげで、多大なる収益を上げ、その額はいつもの3倍までは行かなかったが、それに近い額まで達していた。N君も未だかつて無い収益を上げ、衝動買いで?十万円もする電化製品を買う始末であった。全く、お金の貯まらない男である。

制裁

ある店での出来事、いつものように10分前に並び、開店を待っていた。並んでいる人は5人程度。昨日の玉ポンコーナーは多分、全台設定5。据え置きの台ならどれでもいいやと思っていた。そして開店。それと同時に先頭に並んでいた30歳半ばくらいの2人組が物凄い勢いでダッシュし、なんと玉ポンコーナーへ。そして2台並んで陣取っていた。その1台は昨日私が出した台で、明らかに設定5の台だった。「なにもそんなに慌てなくても…」そんなことを考えながらふとその2台に目を向ける。あ!ベットランプが2台だけ消えている!これは即ち設定変更を意味する(この時代のサミーの筐体は、設定変更するとベットランプのところが全消灯する。据置なら前日の最後のベット枚数の有効ラインが点灯している)。このときの私は(誰でもだろうけど)この2台だけ設定を下げた!こう思った。少し興味がわき、その2人組みの隣の席に腰をすえる。そして遊技開始だ。私の台は多分据置の設定5なので当たり前のようにメダルを重ねる。その2人組みはと言うと、台の説明書をBIGの度に凝視し、全くの無知の様子。さらには7の目押しがようやく出来る程度なのでBIG獲得枚数もかなり少ない。しかし一つだけ様子がおかしい。その2台ともボーナスに当選しすぎである。これは…明らかに設定6だ。設定5と6ではBIG確率に雲泥の差があるのですぐに分かってしまう(設定6で238分の1・設定5で343分の1)。なんと言えば良いのか分からないが、これは間違いなく設定情報の漏洩であろう。スロッターにとって最も神聖なる設定の漏洩…。ルスベカラズ…。そういえばこの2人組、昨日はカンフーレディで並んで出していたな…。まだ若かった私は頭に血が上り、店側と2人組を「少しでも懲らしめてやりたい!」そういう衝動に駆られたのである。この2人組みになんとしてでも勝つ!機械割では設定5と6では30%近くも違ってくる。そのハンデを技術で越えてやる。そう思った瞬間から猛然と打ち出し、みるみるメダルを重ねる。2人組は消化の遅さと、技術の無さによりいまいち勢いに欠けるが、ボーナス連打によって、こちらもメダルを重ねる。技術の無さに嫌気がさしたのか、閉店1時間前に2人組は帰っていった。出したメダルはそれぞれ4千枚前後。私の頭上と足元には合計7千枚ほどのメダルが置かれていたが、それでもまだまだ足らず、止めていった設定6の台に腰をすえる(台移動はできなかったので、一旦メダルを流し、再度現金投入)。7枚交換の店で閉店1時間前に無謀な現金投資。それでも更に2千枚以上のメダルを上乗せし、合計万枚近いメダルを流したのであった。

その日以降も暫く2人組は現れたが、玉ポンに座ることはなかった。私は相変わらず玉ポン三昧。毎日が出玉の洪水だった。そんな折、白シャツを着た店員が話しかけてくる「連日そんなに出してもらうと困ります」、私は「出る店だから来るのです、出るのが困るのなら出ないようにすればいい」そう答えると、私のほうをジロリと睨み、奥のほうへ去っていった。あくる日、いつものように同店に朝一から玉ポンを打ちに行ってみると、昨日あれだけ不機嫌そうだった白シャツ店員が私に向けて笑顔で挨拶をしてくる。玉ポンコーナーに目をやると、そこにはなんとも言えない光景があった。玉ポンのベットランプが全台消灯していたのだった。あぁ、そうか、なるほどね。私は白シャツの店員に近づきこういったのだった。

「今日もたくさん出てしまうと困るでしょ?だから今日は打たずに帰ります。」

その日以来、同店を訪れることは無かったが、同店が店じまいを余儀なくされるのに、さほど時間はかからなかった。

◇次回予告◇

まだまだ快進撃は止まらない!そんなA氏に様々な人が声をかけてくる。その理由は?次回「指南役」乞うご期待!

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。

□今年もオールナイト営業□

この「ゲッツ!」が発刊されている頃は、既にオールナイト営業は終わっていますが、過去のオールナイトエピソードを一つ紹介しましょう。

三重県にスロットが導入されてから2回目の大晦日。私はN君と一緒に36時間打ち切る約束をしていました。まずは2人で某店にて打ち始めました。すると、N君の大花火がやたらと当選し、挙動は明らかに設定6。一人でルンルンで打っているとあれよあれよという間に6箱のメダルの山!ゆうに8千枚はありました。これはイケルと思ったN君は、超ご機嫌で私に言いました「ちょっと初詣に行ってくるわ!倍位に増やしておいてな!」そして私もノリノルで答えます「倍やな、OK!余裕余裕♪」

数時間後、N君が初詣から戻ってきました。そして私の頭上のメダルを見て言いました。「あれ?10箱くらい流したん?」「いいえ。流しておりません。真面目に打った結果がこれなのです」私は頭上の3箱を指差していました。そして続けて「ちょっと、初詣に行ってくるわ、設定6ではなさそうやけど、設定1でも勝てるから頑張って増やしといて」と伝えると、大ハマリの連続を直に目にしていないN君にはまだ希望があったのか「オッケー!まかしといて♪」このように答え、まだご機嫌な様子だった。

数時間後に私は戻ったが、大花火にN君の姿は無くなにやら別の機種を打っていた。「やめたん?で、メダルは?」「無いよ、全部飲まれたから」

最初の12時間だけ見れば設定6。この日が通常営業だったら「設定6を打った」と平和に終われたものを…。さらにこのあとも眠い目を擦りながらいろんな台を打ち続け、憤死したのであった。しかし二人の顔に後悔の色は無く、ただそこには車の中でスヤスヤと眠る、幸せそうな2人組の顔があったのだった。